

## 浦上キリシタン流配150年(2018~23)

## ニュースレター



長崎教区+ 広島教区 手を携え

「全国流配地案内」発行に向けて

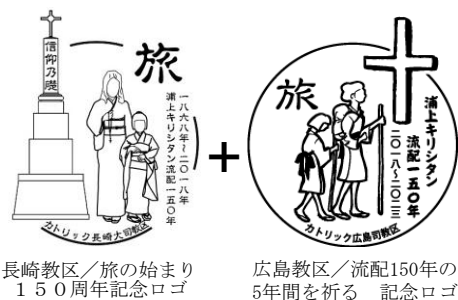
## 長崎・広島「旅」連絡会発足(3月)

昨年5月山口で全国の四番崩れ流配地関係者が集まったの会合、そして続く7月の浦上教会でのシンポジウムでの発表。これら2つの集いが、今年3月に一つの実りをもたらしました。

これから長崎教区と広島教区が協力し合って、一つの冊子「全国四番崩れ流配地案内(仮称)」の編集・発行を目指します。一つのイメージとして「広島教区殉教地・巡礼地案内」の様な、信徒にもそして一般の方にも一目で全国22箇所の流配地の様子が、手に取るようにわかる…そのような冊子が出来たらと希望しています。もし流配者たちの長崎帰還150年の年(2023年)までに完成したら、喜びもひとしお増します。

この編集は、長崎の皆さんと広島教区の私たちが対等な立場で、話し合いの内に進めることが不可欠です。長崎・浦上のことを一番よく知っておられる方々と一緒に、この冊子編集を始められることは、私たちにとってこの上ない喜びです。

今後広島教区内7箇所の流配地を擁する教会の方々を含め、西日本22箇所の流配地を擁する教区・小

長崎教区/旅の始まり  
150周年記念ロゴ広島教区/流配150年の  
5年間を祈る 記念ロゴ

教区の方々の資料提供などのご支援を受けて、編集作業を進められるようお願いしています。皆様方のご理解とご協力をお願いします。

また両者の協力の証しとして、今後発行する「ニュースレター」には、長崎からの情報記事の掲載も随時掲載出来ることと思います。レター紙面の充実にご期待ください。



京都大殉教の碑

私たち広島教区にも5人の福者

## 10月4日(土)188殉教者ゆかりの教区の集い 開催

1619年52人が亡くなった京都大殉教の地、京都河原町教会で188殉教者ゆかりの9教区から約20人が集い、各地での殉教祭など顕彰の活動について発表しあった。広島教区も萩の熊谷豊前守元直や山口のダミアン、そして広島くまがいの遠山甚太郎・庄原市左衛門・九郎右衛門の5人の顕彰の様子を報告した。長崎での列福式から11年経ち、今一度福者に思いをいたすと共に、「列聖に必要な奇跡の報告を！」とのお話が有った。例えば地元の福者の「〇〇と187殉教者」を

念頭に、病気の平癒などの奇跡を祈るのも良いそうで、実現したら主任司祭を通じて報告をとのこと。一人の福者だけに祈ると、その福者だけが聖人になってしまう？ 翌日は京都の大殉教の記念碑や26聖人ゆかりの史跡等を巡礼し、河原町のカテドラルでは大殉教400年記念ミサが大塚司教主任司祭、集い参加司祭と京都教区司祭の共同司式で行われた。また今回の会議では、日本の殉教者全体のシンボルマークとして「キリシタン時代の花クルス紋章」の制定が発表された。中央協議会HPに解説記事。



花クルス紋章

福者は地域での祈りの対象、聖人は世界的な祈りの対象となります。私たち広島教区民も、津和野の証し人の列福実現を祈ると共に、教区ゆかりの五福者と183殉教者に祈り、列聖のための奇跡が私たちの中に起こることを願いましょう。

## 10月13日(日) 殉巡ネット第5回全体会議(総会)

教区内の殉教地・巡礼地を預かる教会や活動関係者の集いを岡山教会で開催した。4年に一回の開催ですが、超大型台風の襲来で開催が危ぶまれる中、岡山に何とか集合して頂けた。これまでの「流配レター」



発行や「巡回パネル展示会」の開催等、事務局からの報告と各地の活動状況の報告があった。

協働司祭の服部神父からは、皆様方から多額の献金を受けた「広島キリシタン殉教碑」の移設問題が、中断状態から前進することとなり、移転完了までもう間近とのお話でした。「津和野の証し人」の列福申請もローマへの文書提出が早ければ年内にもとのお話もあり、期待に胸が膨らみます。16年目を過ごす殉巡ネットです。2023年の教区100周年に20周年を迎えます。

## 10月14日(祝/月) 鶴島巡礼 + 鶴島への旅

東日本を襲った台風の被害に遭われた方々が、復旧・復興に向けて進んでいけるようお願いながら、149年前に岡山藩に流された117名の流配者に祈りを捧げるため、約170名の方々が鶴島巡礼(含む徒歩巡礼/岡山～日生)に参加された。岡山教会 主催。



野外ミサ中の説教で白浜司教は、今進んでいる津和野の証し人の列福調査にも触れられ「教会側・政府側双方の資料が必要。一番資料が整っているのも、津和野を浦上四番崩れ流配者の代表・象徴として一足先に行く。列福・列聖は死者のためでなく、今巡礼の旅をしている私たち教会のためです。また、鶴島で命を捧げられた方を忍び集まる方が昔も今もたくさんおられる、この事実こそ彼らの信仰が後世に影響を与えている確かなしるしです。彼らの願いは自らの列福・列聖でなく、今に生きる私たちを励ましたい一念と思う」とお話しされ、ミサを続けられました。今年は殉教者の石碑も文字がクッキリと見えるよう補修整備され、朽ちていた市指定史跡を示す標示板も、備前市のご尽力で更新されていた。